

令和4年度文化芸術による子供育成推進事業－巡回公演事業－

ワークショップ実施計画書

制作団体名	有限会社瓦照苑
公演団体名	夙川能舞台瓦照苑

内容
<p>「たのしくまなぼ！能・狂言」</p> <p>第一部：能パート</p> <p>1. 挨拶と能の説明(10分) 能面の鑑賞から興味を引き、能の歴史、成り立ちをわかりやすく説明し、以降の体験につなげます。</p> <p>2. 能の動きって？～身体の揺れない動き方(15分) 仕舞「高砂」を鑑賞し、その動き方の特徴を児童に質問して確認します。 そこから能が武士の影響を受けていることを説明し、隙を見せない動き方、「カマエ」「ハコビ」(能の基本の歩き方)等を体験します。</p> <p>3. 謡体験(10分) 能の基本である呼吸法や発声法等から舞台上の所作までわかりやすく伝え、本公演共演の為に祝言謡「老松」の稽古をします。</p> <p>4. 能面体験～いろいろな物語の主人公に変身～(15分) 生徒代表者数名に能面をかけてもらい、様々な能の物語を伝え想像してもらいます。その中で、能「大会」の能面を用いて、あらすじを解説します。</p> <p>第二部：狂言パート</p> <p>5. 能と狂言の違い(10分) 能がシリアスな内容、狂言がコミカルな内容という原則のもと「笑い方」「雷を落とす」等、動き方や表現の仕方の違いを楽しく鑑賞してもらいます。</p> <p>6. 狂言体験～仏像に変身？(25分) 狂言「仏師」で、すっぱが「仏像」に変装する時の『お多福』の面を児童全員が各々作ります。そしてその面をつけて、本公演で実際に行われる「すっぱが仏像に変装する」やり取り(男側、すっぱ側の両方)をゲーム要素を入れて体験します。 その際、自ら考えた仏像のポーズを自由に表現してもらいます。 その中からいくつかのポーズを選択し、実際の公演に取り入れます。</p> <p>7. 終わりのあいさつ(5分)</p> <p>※途中に10分休憩有 希望者は能面体験や能楽師とのフリートークを行えます。 (ふれあいタイム)</p> <p>※約100分のプログラムですが、時間割に合わせて調整可能です。</p>

タイムスケジュール（標準）
[例：13：30より開始の場合] 12：30頃 到着・準備 13：15 入場 13：30 開始 15：10 終了 15：40頃 撤収・退出

派遣者数
5名

学校における事前指導
特になし。 (事前学習無しでも楽しめるようにプログラムを組んでおります)

令和4年度文化芸術による子供育成推進事業—巡回公演事業—

本公演実施計画書

制作団体名	有限会社瓦照苑
公演団体名	夙川能舞台瓦照苑

演目

第1部 能と狂言ってな～に？

- ・はじめの挨拶（5分）
- ・能・狂言ってな～に？（能楽解説）（10分）
- ・狂言「仏師」のお話と鑑賞（20分）
作者：河竹黙阿弥 上演形式：省略版

—間休憩 10分—

第2部 半能「大会」鑑賞（プロジェクター投影による歌詞やイラスト解説付）

- ・能開演の儀 ～謡に挑戦！老松を謡ってみよう～（15分）
※舞台後方に歌詞を投影。
- ・半能「大会」のお話と鑑賞（25分）
作者：不詳 上演形式：省略版

※約100分のプログラムですが、時間割に合わせて調整可能です。

派遣者数

17名

タイムスケジュール（標準）

[例：13：30より開始の場合]

- 10：00 舞台設営チーム到着
- 10：00～12：00 舞台設営
- 12：00～12：30頃 他の出演者到着・準備
- 13：00 入場
- 13：30 開始
- 15：10 終了
- 15：20～ 舞台撤去
- 15：40頃 出演者退出
- 16：30頃 舞台設営チーム退出

実施校への協力依頼人員

1名程度

到着時の門の開閉（必要な場合）、駐車スペースの指示、電源・照明等の説明、控室等の案内、学校の音響設備の準備をお願いします。

演目解説

狂言「仏師」あらすじ

自宅に御堂を建てた男は、仏師に仏を造ってもらおうと都に出かけ、仏像を「買いたい」と大声で言い回ります。すると自分は仏師だというすっぱ（嘘つき）が近寄ってきました。男は大喜びし、早速仏像を注文します。

次の日、完成した仏像を見に行った男。素晴らしい出来栄えのその仏像、実はすっぱが変装したもので…。

すっぱの「仏師」と「仏像」の「1人2役」がわかり易く楽しい演目です。

半能「大会」あらすじ

お坊様に助けもらった天狗は、恩返しがしたいとお坊様の願いを聞き（省略箇所）、お釈迦様に化けて説法を始めます。それを見て、お坊様はあまりのありがたさに手を合わせて拝んでしまいます。すると、「正直なお坊様をもてあそぶとは何事か」と怒った仏教守護の神様「帝釈天」が駆けつけて、天狗をこらしめます。怒られるのが嫌な天狗は暫く争いますが、最後は平身低頭謝り、自分の住まいへ逃げ帰っていくのでした。

『荘厳な釈迦仏の説法を真似た天狗の術』を帝釈天によって打ち破られ、天狗が正体を現す場面は、謡・囃子の緩急ある音楽性で表すばかりでなく、顔や髪の色、装束の色など、姿かたちからガラッと変わる為、非常にインパクトがあり、低学年にも分かりやすい演出となっています。また、後半の作り物（大道具）は釈迦如来の椅子「獅子の座」を表し、安易に表現すると、とても大きな椅子に座る天狗が大変偉そうぶっていることがわかります。故に、「偉い人のふりをして騙そうとした」という天狗の行為が児童に明確に伝わります。

児童生徒の公演への参加方法、公演に参加させるための工夫

①狂言「仏師」で、すっぱが「仏像」に変装する時のお多福の面をみんなで作ります。そしてその面をつけて、ポーズを児童生徒に考えてもらい（事前ワークショップ）、実際の公演に取り入れます。状況により、ポーズをいくつか提示して、生徒に選んでもらう場合もあります。

②薪能等でよく行われている「能開演の儀（能奉行舞台改め）」を共演します。代表者1名（教師または児童・生徒）が和装して能奉行に扮し舞台上がり、能奉行の合図の掛け声を聞いて、全校児童・生徒が祝言謡「老松」をシテ方と共に発表します。

児童生徒とのふれあい

・「能開演の儀」では、能奉行に扮した代表者（1名）に舞台上がってもらい、直前に練習した謡をみんなで謡って、一緒に「舞台の始まり」を盛り上げます。